

令和7年度 杉並区立桃井第五小学校 経営・評価計画【自己評価報告書】・「学校関係者評価報告書」					校長 佐野 篤				学校関係者評価委員会委員 委員長 天野 博之(CS) 委員 唐澤 弘子(CS) 石井 雅幸(CS) 津吹 猛司(CS) 丸山 麻雄(CS) 伊藤 益子(CS) 白瀬 理恵(CS) 柴崎真由美(CS) 田中 哲(CS) 天野 由紀子(CS)	
目標体系										
杉並区のエデュビジョン	「みんなのしあわせを創る 杉並の教育」 ◇学び合い、信頼をつくり、共に生きる ◇ちがいを認め合い、自分らしく生きる ◇誰もが社会の創り手として生きる									
学校の教育目標	『やさしく かしく たくましく』									
経営方針	○誰一人取り残さずに、みんなで支援する ○多様な風を受け止め、常にアップデートする									
大切にしている学校の像	『やさしさとしあわせが行き交う桃五小』 ○自分が成功したり、成長したりする喜びを「しあわせ」と感じる人を育てるのはもちろんのこと、人を助けたり、役に立ったりする喜びを「しあわせ」と感じる人を育てる。 桃五小に「しあわせ」を引き寄せる5つの習慣 「○しせい ○あいさつ ○ありがとう ○わらい ○せいとん」									
大切にしている児童像	◎「自立」 自分でよく考えて、自分らしく行動する。 ◎「共生」 多様さを認めて、人を大切にすること。 ○「寛容」 自分の中に、「やさしさ」を育てる。									
大切にしている教師像	① 自らよく考え、子供自身の成長を大切にし、日常の授業の質の向上に努める教師。 ② ICT等の教育環境の変化を楽しみ、教員相互に学び合い、支え合い、高め合う教師。 ③ 保護者、地域の願いを共感的に聞き取り、積極的な情報発信を行い、密なる連携ができる教師。									
令和7年度 経営計画・評価計画									評価	学校関係者評価委員
区分	重点目標	目標実現のための方策		結果と成果	児童	保護者	教員			
教育理念	子供の人権や意見を尊重した「子供センタード」(子供を真ん中にした)な教育活動を展開する	○子供の目線を大切にし、子供自身が意見を述べたり、発表したり、決めたりするような、子供が主体の学校行事や教育活動を推進する。 ○誰もが安心して学べる学校づくりについて考えるために、代表委員会でスローガンを定める。 ○子供による学校評価を実施し、教育活動や次年度の教育計画に反映させる。 ○全学年で「生命(いのち)の安全教育」を実施し、子供を性暴力の加害者、被害者、傍観者にしないための指導を行う。								
チーム学校	子どもの抱える諸問題を学年チームや学校全体で対応する	○チーム担任制(教科担任制、交換授業、専科教員等の活用)に積極的に取り組み、生活指導上の問題等を学級担任が一人で抱えるのではなく、学年チームや学校全体で対応する。 ○発達支持的生徒指導を重視し、全教職員が子供への挨拶、励まし、賞賛及び対話等を大切にして、予防的対応をとる。 ○毎週金曜日の生活指導連絡会でいじめや不登校等の情報共有をして、全教職員で子供の課題の早期把握に努める。								
施設設備	施設設備の安全管理を充実し、安心して学べる環境を整える	○安全教育と安全点検を学校安全の両輪とする。学校安全指導計画に基づいて、継続的に安全教育と安全点検を実施する。 ○学校保健安全委員会を教職員、保護者及び地域で組織し、事故情報について共有するとともに、合同で安全点検を実施する。 ○芝生を育てる会と協力して、校庭芝生の維持管理を行い、児童が安心して学べる環境を整える。								
いじめ防止	学校いじめ防止基本方針を的確に運用し、未然防止、早期発見、早期解消に努める	○いじめは、学校いじめ防止基本方針(R6. 11改定)に則って対応する。また、年度初めの保護者会で同方針の内容を説明し、ホームページに掲載して周知を図る。 ○「ふれあい月間」(6月・11月・3月)には、いじめ防止の授業を実施するとともに、アンケート調査や対話面談を実施し、未然防止、早期発見・早期解消に務める。 ○いじめ防止対策委員会を定期的に実施するとともに、諸問題には管理職への一報を徹底する。初期段階から記録を作成し、事案を可視化して、組織的に対応する。								
学びに向かう力	探究的な学びを意識して授業改善を行い、学びに向かう力の育成を図る	○校内研究として、子供が自らの興味関心に基づいて探究的に学習を進める「マイ探究」に取り組む。課題の設定や解決の手段等を検討して、全体計画や年間指導計画を刷新し、各学年の実践を共有しながら、本校における探究的な学びの在り方を研究する。 ○対話を重視した授業展開や個に応じて最適な学びを選択する「マイセレクト学習」を継続する。 ○毎週金曜日に「放課後補習」を実施し、誰一人取り残さないように学校全体で取り組む。								
教育DX	情報活用力を育成し、教育DXを推進する	○「教育DX部」を学校組織に位置付け、日々進化する情報化に対応し、デジタルならではの多様な学びの可能性を追求する。 ○一人1台専用タブレット端末を効果的に活用し、ロイロノートやAIドリル等の学習支援ツールを用いた多様な学習指導に取り組む。 ○子供の情報モラルを高めるため、学期1回の定期的な情報モラル集会を実施する。								
教育支援	だれ一人として取り残さないための教育相談および教育支援の充実に努める	○発達支持的生徒指導を重視し、「ふれあい月間」に合わせて、年2回の対話面談を実施して、全員面接を行い、子供の成長やつまづき、悩み等に寄り添い、深刻な問題に発展する前に対応する。 ○気掛かりな子供(不登校を含む)を発見した場合には、管理職、生活指導主幹、教育相談コーディネーター、学年主任、担任、スクールカウンセラー等で構成した支援会議で、支援の方向を検討する。 ○子供が、自分のペースで学習を進めたり、教室に入れない時に気持ちを落ち着かせたりする場として「ももぐらウンジ」(校内別室支援事業)を職員室横に開設する。 ○特別支援教室(ももこ教室)においては、巡回教員、特別支援教室専門員、スクールカウンセラー等と連携を図り、発達の特性に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。								
幼保小中	近隣園や中学校との交流活動を進め、円滑な接続を図る	○夏季休業中に、近隣園児が学校を訪問し、体験授業を受ける「わくわく学校体験」を実施する。2学期以降、近隣園からの要望に応じて、随時、学校見学や交流授業を受け入れる。 ○近隣の教員・保育士と連絡会を開催し、スタートカリキュラムについて協議し、内容の充実を図る。 ○中学校とは、「あいさつ運動」「学校見学」「部活動体験」「体験授業」等を計画的に実施し、円滑な接続を図る。								
健康体力	授業、外遊び、食育等を通して体力向上を図る	○芝生の養生期間を意識して年間予定を見直すとともに、朝遊び、休み時間、放課後タイムを利用して、たくさん体を動かす機会を確保する。 ○運動能力テストや学校保健安全委員会等で、児童の運動や健康に関する課題を明らかにし、学校全体の健康づくりの取組を行う。 ○学校給食運営協議会を開催するとともに、食育プロジェクトを中心に給食指導および食育の充実を図る。								
特別活動	子供が気付き、考え、実行し、しあわせを感じる特別活動を推進する	○「ももごタイム」の中で、子供主導で集会(たてわり班活動)等を実施し、全校で継続的に取り組むことで、子供同士のかかわりを深める。 ○青少年赤十字の理念に基づき、係活動や委員会活動で責任をもってやり遂げる達成感や、人のために役立つ幸福感を味わうことができるようにする。 ○授業の成果を発表する場として、3DAYS(スポーツDAY・ミュージックDAY・アートDAY)を実施し、実践を通じて、持続可能な学校行事の在り方について研究する。								
地域参画	多くの大人の力を借りる「オール桃五」の学校づくりを行う。	○PTAと連携し、保護者の理解や協力を得ながら、子供たちが安全で、充実した学校生活が送れるようにする。また、学校公開を毎学期1回実施し、アンケートをとって改善に生かす。 ○学校支援本部と連携し、通常の授業や土曜授業において、質の高い授業や安全に配慮された授業を提供したり、学習環境の整備をしたりする。 ○学校運営協議会と連携し、様々な課題や対応を報告するとともに、理解や協力を得る。また、学校関係者評価を実施する。 ○放課後等居場所事業(スマイル広場)の実施に当たり、地域や各関係機関と積極的に連携する。								
働き方改革	学校行事のあり方や業務内容を見直し、働き方改革を推進する	○出退勤入力により、各自がタイムマネジメントを意識し、月平均の残業時間が20時間以内になるよう努力する。 ○学校の常識にとらわれずに、常に業務内容を見直し、余裕をもって自分らしく働けるようにする。 ○教室、特別教室、職員室その他、整理・整頓・清潔・掃除の徹底を図り、業務の効率化を図る。								